

令和3年度第1回みよし市総合教育会議 次第

日時：令和4年2月18日（金）

午後1時15分から

場所：601、602会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

（1）みよし市教育に関する大綱の確認について

（2）みよし市版コミュニティ・スクールについて

4 その他



「教育に関する大綱」の策定について

- 平成26年、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成27年4月1日に施行されたことに伴い、地方自治体の首長には「教育に関する大綱」の策定義務が課されました。
- 「教育に関する大綱」は、地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を首長が総合教育会議において教育委員会と協議し、策定するものです。
- 本市では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、平成27年5月に設置したみよし市総合教育会議における教育委員会との協議を経て、本市の教育に関する目標や根本となる方針である「みよし市教育振興基本計画」を「教育に関する大綱」として定めることとしました。
- この大綱では、基本理念を「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」とし、目指す人間像を「生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人」と設定しており、その実現のための「三本の柱」を定めております。
- 今後は、この「教育に関する大綱」に基づき、本市の教育の更なる充実を図ってまいります。

平成28年2月23日

みよし市長 小野田 賢 治

基本理念

学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ

これからのみよしの教育に最も必要とされているのは、真の「学び」が持つ楽しさにより、人と人がつながっていくことであると考え、この理念を計画の中心に据えました。

目指す人間像

生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人

三本の柱

基本理念に従い、次のような三本の柱を設定することで、目指す人間像に迫ります。一人一人の輝きが、みよしというまちの輝き、そして私たちの社会全体の輝きとなることを目指します。

I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる

「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭・地域・学校のみんなで大切に育てます。また、子育て世帯もしっかりと応援していきます。

- ・子育て世帯を支援する
- ・仲間と進んで学ぶ子どもを育てる
- ・心豊かな子どもを育てる
- ・たくましい子どもを育てる
- ・個に応じた教育を推進する
- ・安心・安全・快適で信頼される学習環境を作る

II 生涯にわたって学び続ける市民を応援する

義務教育を終えた後も、生涯にわたって学び続ける市民を応援します。スポーツから文化・芸術に関することまで、市民の生涯学習を幅広く支援し、人と人のつながりを生みだします。

- ・生涯学習環境を整える
- ・生涯スポーツを推進する
- ・文化活動を活性化する

III 「ふるさとみよし」を創る市民を育てる

みよしの良さを知り、未来のみよしを創る市民を育てるために、子どもの頃からみよしの良さを体験的に学べるようにしたり、学びを通じて人と人が出会うような場づくりをしたりします。

- ・ふるさと学習を推進する
- ・人と人との出会いを生み出す



みよし市 教育に関する大綱（案）

「教育に関する大綱」の策定について

- 「教育に関する大綱」は、地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を首長が総合教育会議において教育委員会と協議し、策定するものです。
- 本市では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、みよし市総合教育会議における教育委員会との協議を経て、本市の教育に関する目標や根本となる方針である「みよし市教育振興基本計画」を「教育に関する大綱」として定めることとしました。
- この大綱では、基本理念を「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」とし、目指す人間像を「生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人」と設定しており、その実現のための「三本の柱」を定めております。
- **SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ**、この「教育に関する大綱」に基づき、本市の教育の更なる充実を図ってまいります。

令和4年2月18日

みよし市長 小山 祐

基本理念

学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ

これからのみよしの教育に最も必要とされているのは、真の「学び」が持つ楽しさにより、人と人がつながっていくことであると考え、この理念を計画の中心に据えました。

目指す人間像

生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人

三本の柱

基本理念に従い、次のような三本の柱を設定することで、目指す人間像に迫ります。一人一人の輝きが、みよしというまちの輝き、そして私たちの社会全体の輝きとなることを目指します。

I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる

共に育み、育てる、育ち合う「共育」、協力して育み、育てる、育ち合う「協育」の理念の下、「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭・地域・学校のみんで大切に育てます。また、子育て世帯もしっかりと応援していきます。

- ・子育て世帯を支援する
- ・仲間と進んで学ぶ子どもを育てる
- ・心豊かな子どもを育てる
- ・たくましい子どもを育てる
- ・個に応じた教育を推進する
- ・安心・安全・快適で信頼される学習環境を作る

II 生涯にわたって学び続ける市民を応援する

義務教育を終えた後も、生涯にわたって学び続ける市民を応援します。スポーツから文化・芸術に関することまで、市民の生涯学習を幅広く支援し、人と人のつながりを生みだします。

- ・生涯学習環境を整える
- ・生涯スポーツを推進する
- ・文化活動を活性化する

III 「ふるさとみよし」を創る市民を育てる

みよしの良さを知り、未来のみよしを創る市民を育てるために、子どもの頃からみよしの良さを体験的に学べるようにしたり、学びを通じて人と人が出会うような場づくりをしたりします。

- ・ふるさと学習を推進する
- ・人と人との出会いを生み出す

みよし市版コミュニティ・スクールについて

1 ねらい

本市の「みよし教育プラン（教育振興基本計画）」では、家庭・地域・学校が一つとなって子どもたちの成長を支えていく、「共育、協育」の理念の下、互いの「連携」を深めながら、生涯にわたる学びを通して、人と人がつながり、子どもも大人も共に成長していくことを大切にしている。

これは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという、新学習指導要領の理念と重なる。この社会に開かれた教育課程の実現に向けて、「次世代の学校」といわれる本構想の意義を活かした教育活動を目指し、昨年度よりスタートした。

取組にあたっては、新しいことを増やすのではなく、これまで行ってきたことに価値づけし、つながりをもたせ、効果を高め、持続可能な活動になるよう促すことを大切にして実践している。

2 令和3年度までに行ったこと

- ・ 県内外の動向を調査し、本市へ導入する必要性を検証することをねらいとして、取組をスタート。
- ・ 津島市や豊田市はじめ県内先進地への視察を通じて情報収集を行うことにより、本市に合った取組の仕方を模索。協働推進課や環境課などの市役所関係課とも連携を模索。
- ・ 全小中学校長、区長会役員はじめ民生児童委員ら地元有識者、幼保高校大学関係者、企業、いきいきクラブ、総合型スポーツクラブ関係者、児童クラブ、スポーツ団体関係者、ボランティア団体等と懇談。
- ・ 三好中学校をモデル校として、従来の学校評議員会制度から、一定の権限をもたせた「学校運営協議会（＝みよし版コミュニティ・スクール）」を立ち上げ、「地域学校協働活動推進員（＝コーディネーター）」を委嘱。学校や地域の思いをつなぐところから実践を計画。

◆ これまでの取組事例

みよし市の将来について自分たちも考えたいという生徒たちの要望に応え、市役所関係各課や大学等を重点とした連携を行った。次第に地域やPTA、企業などにも広がっている。その一部は、以下のようなものである。

- ① 総合的な学習「SDGsを生かした未来のまちづくり」の授業で、東海学園大学との連携。
- ② 協働推進課と連携して、「市民憲章」の動画や紙芝居作成による啓発活動協力。
- ③ 総合的な学習「わが街の防災」で学習内容を冊子にし、公民館や市役所など関係機関に寄贈。
- ④ 環境課や地域住民と連携した、ごみ分別促進アプリ「さんあーる」や分別の啓発活動。
- ⑤ いきいきクラブやPTA、地元企業と連携した、継続的な除草活動。
- ⑥ 生徒会主体で、PTAや地域と連携した「地域貢献活動（環境整備活動）」。
- ⑦ その他、地元講師を招いた、英会話、短歌、栽培活動などの授業連携。等々

3 今後の進め方について

令和4年度末までに、コミュニティ・スクールの全中学校への設置の目処が立てられるよう進めている。市内のどの中学校も、地域連携を行ってきた実績や意欲があり、本構想を教育活動に活かそうと検討しているため、計画より前倒して準備をしている。また、土日の部活動のあり方を、地域の教育力を生かした運営方法へ改善できないか、模索し始めている。

小学校においても、順次コミュニティ・スクール構想の設置準備を進めている。本市ではすでに登下校指導や読み聞かせ、図書館整備やお年寄りから学ぶ昔遊びや昔の暮らし、三世代交流、行事補助、家庭科のミシンや調理ボランティア、グランドゴルフのクラブ活動参加など、様々な地域連携がなされている。これまで行ってきたことを、無理なくつなげ、活動それぞれの価値を生かした取組を、コーディネーターとともに地域に広げ、持続できるよう、検討を進めている。

4 成果と課題

◆ 成果

【学校】連携を通して主体的に学んだことを生かしたい、地域の人とつながり、役に立ちたいという意欲につながったとの生徒の感想が多くあった。教員からも学び合いや学習環境づくりにとっても役立ちそうとの手応えがあったとの声があった。まさに、みよし教育プランの基本理念「学ぶ楽しさで人と人をつなぐ」に向かっている。次年度は3校程度取組を始める予定で、数年後には全小中学校で実施できる目標が見えた。

【行政】学校、市役所関係各課、地域との連携強化のヒントがたくさん見つかった。行政に依存し過ぎない取組の重要性も広まりつつある。市役所内にも本構想に対する認知度が広まっている。

【地域・PTA】地域やPTAが学校と関わるメリットを感じ始めており、そのモデル校の取組が他の学校にも参考になっている。

● 課題

・学校が、社会に開かれた教育課程をどのように学校・学年・学級の経営に生かしていくと良いか研修を深めていく必要がある。教育委員会は、学校や地域の実態に合わせた「伴走」のあり方が課題である。

・コーディネーターの人選がとても重要である。また、その役割が多岐に渡る。継続的な研修や情報共有、持続につなげる支援のあり方が課題である。

・行政には、出前授業や各種イベント、作品募集など、学校と関わることは多いので、双方のメリットを生かした継続的連携にしていくことが課題である。

・家庭や地域に向け、「地域とともにある学校（ここがふるさと）」をつくる重要性をどう啓発していくかが課題である。